

## 令和元年度第1回新温泉町総合教育会議議事録

- 1 日 時 令和元年8月9日(金) 午前10時00分～11時44分
- 2 場 所 浜坂多目的集会施設会議室
- 3 出席者  
(構成員) 西村町長、宮口教育長職務代理者、田中教育委員  
大林教育委員、中村教育委員、西村教育長  
(事務局) 川夏生涯教育課長、吉田こども教育課課長補佐兼教育総務係長
- 4 会議録署名人  
西村町長、西村教育長
- 5 協議・調整事項
  - (1) 令和元年度の教育委員会の主な事務事業について
  - (2) 新温泉町まちづくり懇談会の状況について  
【テーマ】  
若者・子育て世代が元気で活躍するまち(7月23日・26日)  
女性が生き生きと輝くまち(8月7日・9日)
  - (3) 児童生徒等の問題行動について
    - ①新温泉町の問題行動の現状について
    - ②令和元年度第1回新温泉町いじめ問題対策連絡協議会について
  - (4) その他

\*\*\*\*\* 開会 午前10時00分 \*\*\*\*\*

○吉田こども教育課長補佐兼教育総務係長 それでは、皆様、おはようございます。  
お忙しい中をお集まりいただきまして、ありがとうございます。

ただいまから令和元年度第1回新温泉町総合教育会議を開催させていただきます。

この会議ですが、教育行政の組織及び運営に関する法律に基づきまして開催するものでございます。

最初に、主宰者であります町長より御挨拶を申し上げます。

○西村町長 皆さん、おはようございます。新しい教育長が決まって初めての総合教育会議ということで、きょうはよろしくお願ひします。

この第1回の総合教育会議を開くべく御案内を申し上げましたところ、教育委員の皆様への御出席を賜り、厚く御礼を申し上げます。また、平素から我が町の教育推進に大変な御努力をいただいておりますこと、心より感謝を申し上げます。

この総合教育会議は、地方教育行政法の改正により、平成27年度から各都道府県、市町村の首長が主宰者となって開催をいたしております。きょうは限られた時間ではございますが、掲げております項目につきまして格段の御配慮をいただき、御意見を賜りたいと思っております。

もう1点、きのう県庁但馬会というのがあって、西上教育長とも歓談する場がありまして、幼・小・中の連携ということで当町はやっているんですけど、高校との連携がいま一つ不足している、ぜひ高校ももっともっと地域の連携をさらに深めて、ほかの学校より浜高が、もっともっと他校に比べたら特色を打ち出してやってほしい、そういうふうな要望も申しておきました。浜高の校長、但馬の全部の校長も全て来ておられまして、いろいろいいお話をする懇談会になりました。

7月23、26日にまちづくり懇談会をしておるんですけど、浜高の通学費を考えてほしいとか、そういう意見もいただきまして、町としても何らかの形で支援して、城北高校なんかに行く生徒が大変多いもので、もっとそういうところの対応策の一つとしてもやっぱり浜高をバックアップして、地元高校として地元の子どもたちが行けるような、そういう環境を支援していきたい、そんなふうに思っておりますので、きょうはまた後で報告があると思っておりますけど、よろしく申し上げます。

○吉田こども教育課長補佐兼教育総務係長 ありがとうございます。

この後の進行につきましては、主宰者であります町長のほうでお願いをしたいと思います。よろしくお願ひいたします。

○西村町長 では、座って進行させていただきますので、よろしくお願ひいたします。

それでは、協議・調整事項に入らせていただきます。

最初に、令和元年度教育委員会の主な事務事業についてであります。

詳細について、事務局が説明をいたします。

○吉田こども教育課長補佐兼教育総務係長 失礼いたします。まず、こども教育課の所管の事務事業について、私のほうから説明をさせていただきたいと思っております。事前に資料のほうを配付させていただいておりますので、ポイントだけ説明をさせていただきたいと思っております。

1 ページをご覧ください。下から2つが新規事業ということでございます。まずは、プロから学ぶ創造力育成事業ということで、これは中学校におきまして、世界の一線で活躍する兵庫県ゆかりの人に来ていただいて、講話、実演等を行っていただくというものでございまして、県の補助事業ということでございます。浜坂中学校におきましては7月10日に実施しておりまして、地元の日本精機宝石工業さんにお越しをいただいて授業をしていただいたということでございます。また、夢中につきましては9月下旬か10月というところで日程調整を今しているところですが、スポーツ品メーカーのアシックスさんに来ていただくということで調整をしておるところでございます。

次に、一番下のいじめ問題対策連絡協議会でございます。今年度から条例を制定して立ち上げた組織でございまして、7月19日に会議を実施しております。詳細については、後ほどの議題で説明をさせていただきたいと思っております。

めくっていただきまして、中段になります。新規事業ではございませんが、まず、スクールアシスタント配置事業ということで、例年、各小・中学校に配置をしております。当初予算で小学校が12名、中学校が4名の配置ということで組ませていただいております。現在、小学校におきましてはフルタイムの勤務で9名、時間勤務ということで4時間、5時間、6時間がそれぞれ1名ずつということで、合わせて12名の方に勤務をしていただいているという状況でございます。中学校につきましては、当初予算のとおり4名勤務をしていただいております。

次の特別支援指導補助員の配置事業ということでございます。こちらにつきましては小学校の配置ということで、当初予算で11名組ませていただいておりますが、現在フルタイムで11名、5時間勤務で1名の配置をさせていただいているという状況でございます。こちらにつきましては町のほうで配置基準を設けておりまして、それに準じた形で配置をさせていただいているということと、あわせて、実情に応じて臨機応変にも対応させていただいているところでございます。

簡単ですが、こども教育課の事務事業の説明は以上です。

○川夏生涯教育課長 引き続き、生涯教育課の報告をさせていただきます。3ページからが主な事業ということであります。

あと、生涯教育としましては、条例、規則、いわゆる事務分掌につきましては主に52の事業があります。実際には97の事業があつて、この会議の前に計算しますと、

会議とか教室で年間約477の会議とかがあるというような状況で、内容につきましては学校教育以外ということでありますけれど、近年は、学校と地域と家庭の連携というようなことで事業的なものは増えております。

あと、事業の内容について、どういう年齢を対象にしているかということで確認しましたら、大体、保育園、幼稚園関係が5、小学生が23、中学生対象が16、青年対象が11、高齢者が3で、全世代が対象のものが54というような分散になっております。

令和元年度の主な事業ということで新規事業のほうを紹介しますと、3ページの3つ目、地域スポーツ活動支援施設整備事業ということで、基本的には体育施設の維持管理というところではありますが、今年度、温泉高校跡地の利用の一つということで、教育委員会としましてはスポーツ、特に人工芝のサッカー場の建設ができないかということで、その調査関係の費用をこの項目で上げて検討をしているというようなのが新規ということで上げさせていただいております。

次に、5ページに飛びますが、上から3つ目の夢ホール耐震化等改修事業ということで、昨年度、耐震の診断をし、設計の計画を出していただいて、現在は実施設計のほうに入っております。8月末までを利用ということで、9月に入りますと改築に向けての準備のほうに入っていくって、できれば12月から工事のほうに入れたらということで進めています。

2つ下の「山の声」舞台公演ということで、加藤文太郎記念図書館が開館25周年ということで、新温泉町出身の舞台俳優の方が所属されており、文太郎をテーマとした演劇のほうを、この11月に中学生を対象に2校で公演のほうをしていく。また、一般を対象とした事業などもしていくということで計画をしております。

あとのものにつきましては、例年と同じということでございます。以上です。よろしく申し上げます。

○西村町長 事務局の説明が終わりました。

ここで御質問、御意見をお願いしたいと思っております。今後に向けての御提案も一緒にいただければと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。

○田中委員 では、私のほうから。まず、この事業全体に対して、お礼やら、それからお願ひやらという形でしたいと思っております。

まず、お礼ですけれども、本町の教育推進の県下でも有数の特色と言われるものが、

先ほどもありましたスクールアシスタントや特別支援学級に対する支援です。これはとっても私はありがたいことだし、町として素晴らしい取り組みを継続していただいているということに感謝を申し上げたいと思います。

ところが、数としてそろってはあるんですけども、ここから先は私たち教育委員会の課題が大きいと思います。教育長にも教育委員会内でお話ししてありますが、これらの職員が、本当にそれだけの効果を持って教育現場でやっていらっしゃるのかと。そういうふうな対策を町教委として指導、充実しているのか。本年度の学校訪問も新教育長から提案がありまして、その辺を中心に学校を見せていただき、意見があれば出していくというようなことでした。町として対応していただいているこの大きなことを絶対に生かさないで、それこそ町民にも申しわけないし、町長自身の行政運営にも申しわけないことになると思っております。そんなふうな思いで見えていますので、この事業に対してはとっても感謝していると私個人は申し上げておきます。

それから、もう1点です。お願いの部分です。生涯教育の柱のほうで、これも教育委員会内で共通認識していると思って、私が発言させていただきます。教育長がむしろおっしゃるべきだったのかと思うんですけども、公民館のことです。ページでいうと5ページです。町が合併されて、町長も町長になられる以前からいろいろと懸念を寄せられていた情報と私もよく承知しているんですが、地区公民館が住民の一番、生活の中でのコミュニティーの取り次ぎの場として、また生活を掌握する場として、子どもにとっても住民にとってもということ誰かが考えるところです。ところが、ここにもあります、浜坂地域で7館ですか、温泉地域で3館。この現状に対して、予算が組まれていることはありがたいんですが、では、これでいいのか。間違ったらごめんなさい、合併のときに小学校区に1つというふうな話が設置基準としてあったと思うんです。ということは、温泉地域には6つなくてはいけないはずですね。だから、このことがどのように諮られてきたのか。地区の要望がないからということかもしれませんが。というふうなことで、私は、町全体から見れば公民館が非常にコミュニティーの場として求められているし、その果たす役割も大きい。それどころか、今や、私たちの研修でも同じことがあったんですが、小・中・幼までもコミュニティーの場としてのあり方を探れという、そんな時代に入っているのに、一番根幹となるところが設置されていない現実。これについて私はいかななものかと思って、ぜひ町長さんにもお願いしたいし、教育委員会そのものがそのことに熱を発していけないと。要求

がないのには2つあるんです。自分たちがそういうものをどう活用するかというメリットや生きがいにつながるということがよく理解できていないか、または、いやいや、そんなものがなくてもそれにかわるものが十分あるのか、その辺の現状がどう分析されているか。後半だったら私が言うことはないと思う。いやいや、そんなものがなくてもコミュニティーの中心が十分あるから要らないというのだったら、ありがたいことだと。その辺を分析して対応をお願いしたい。町にもお願いしたいし、教育委員会でもぜひ、前から言っている、コミュニティーの拠点として考えてほしい。以上です。

○西村町長 ありがとうございます。

最初のスクールアシスタントは、アシスタント自体の職員さんの取り組みの姿勢を問われているということですか。

○田中委員 活用がうまくいっているのかどうか、狙いどおりに。これは教育委員会の中でもみんなで、そうでなければ困るといっています。

○宮口教育長職務代理者 いいですか。

○西村町長 はい。

○宮口教育長職務代理者 私もそうだと思います。人は準備できた。問題は中身のほう。いわゆる、どう活用していくのか。例えばアシスタントとしての知識なり技術なり、あるいは担任とのコミュニケーションをしっかりととりながらやっていくというのが大事だと思うんですよ。そこところが、変な言い方をすればただのアルバイトみたいな感じになっていないかと。もう少しやっぱり中身をきちっと。応募者が少ないかもわからないけれども、だからといって頭数だけそろえたけれども中身がないというのでは、私はちょっと、今、田中委員が言われました、やわらかく言ったけれども、私はもっときつく言えば資質の問題だと。今、教員の資質云々ということをやかましく言われるけれども、やはりアシスタントとしてもそのコミュニケーションをいかにとるか。子どもを見た段階でどういう情報を提供するのか、あるいはかかわっていくのかというようなことが私は大事だなと思います。

もう1点、1ページのところで下から2つ目だったかな、プロから学ぶ創造力育成事業のところだけれども、こここのところで、例えば今、浜中が終わった。温泉が今度アシックスの関係だという。本当に、学校として今のうちの学校には何が足りないのか。例えば、こういう予算があるから、どこかから呼んで研修したら、子どもたちに聞かせたらいいと。私、安易にそう感じてしまう。うちの学校には何が足りないのか、

どういう思いを子どもたちに伝えたいのか、入れたいのか。そういうものがあって、そこから講演だとか講話だとかということがスタートしないと、ただ、アシックスは有名だから、ここの担当者に来てもらって話をしてもらって。何かちょっと安易的な。やっぱり本当に各学校、これは小・中とも一緒だと思うんです。やっぱり本当に校長さんそのものが、うちの学校ではこういうところはすごく頑張っていて、ほかの学校に負けないぐらいの力はあるけれども、しかし、ここの部分についてはもう少し力を入れておきたいな、ここを伸ばすことで子どもたちが変わってくるという、そういうものがあって、それがこういう事業に発展していくことが大事かなと思いますね。やっぱり見ていると、うちの学校でこういう部分がちょっと弱い、こういう部分を伸ばすことで学校は変わっていくんだという、そういうものを端的にぱっと言えるような、そしてそれをバックアップしていくのがやっぱり教育委員会の仕事だと思います。こういう先生が欲しいと、こういうタイプの、うちはどうしてもスポーツ関係が弱い、運動、体力づくりがちょっと弱い、何とかここに専門知識を持った先生はいないだろうかとか、あるいは文化面でもあったら同じ。そういう中でやっぱり教育委員会も動いてもらわないといけないと思うし、そういう学校責任者である管理職の先生も、やはり自分の学校に対する分析ができているのかなと。だから1年終わればこれでオーケーと、何もなかった、事故がなかった、まあまあ、まあまあかなという、何かそんなような感じがすごくするんです。

○田中委員 賛成です。

○西村町長 特徴ある教育ということですね。

○宮口教育長職務代理者 はい。だから、特色どうのこうのと言っておっても、特色も何にもない。聞いてみると、例えばある校長が、特色ある学校の校長に「どうやっ」と聞いて、それならうちも同じようなことをやるわと。結局、特色も何もない。特別なことをやると目立つし、だからまあまあ当たりさわりのないところで片をつけるというような、そういう感じがしますね。だから、校長さんには、もうちょっと危機感を持ってもらいたいなという。私が辛口の言葉で言うのも、私が教員経験者だから。ちょっと言いにくいんだけど、私から見てそう感じる。

○中村委員 済みません、いいですか。

○西村町長 はい。

○中村委員 お二人がおっしゃったことは大事な事だと思って聞かせてもらった

のですけども、どの事業にしても、本当に何を目的にするのか、何を開拓していきたいからやるのかというその危機感も、何か先駆的に物事を行うという意欲も、そこら辺がしっかりしないから、来年度に向けた発展性がないというのも確かなのかなというふうに思っています。そこら辺をしっかりといい仕事をするという気も起きるし、いろんなものが輝いていくというふうに思うんですけども、まず入口から、いかに先駆的に危機感を持って見詰めていくのかということ、どの事業でも要るのかなと思います。

次に、確認させてもらいたいんですが、いじめ問題の対策連絡協議会の新規の事業で予算が34千円。予算額によって良い仕事ができるというのではないんですが、どれぐらい年間で計画されていて、達するところをどこら辺に持っていったらいいのか、ちょっとお聞かせ願いたいなというふうに思います。

もう1点が、スクールソーシャルワーカー、SSWの配置事業ということで、今お一人だというふうに思うんですが、とても現状を考えて足りている数ではないなというふうに思います。一人一人丁寧にかかわっていかないと、回数も重ねないと、寄り添っていかないとできない仕事がこの仕事なのだろうなというふうに思いますし、学校の関係者との協働をどういうふうにされているのかということも含めて今後の配置計画を、人員的にも含めてどのように考えておられるのか、ちょっと確認させてもらいたいなと思います。

○西村町長 最初に、まずスクールアシスタントのことについて、応募の現状、面接で決めるのですけれども、なかなか埋まらないという現状がある。

それから、地区公民館についてですけど、先ほど田中委員のほうから、各小学校区、旧小学校区に1個ずつあるべきだというふうなことですけど、この推進については、生涯教育課長、今のところどうですか。

○川夏生涯教育課長 旧町合併して、それぞれ公民館体制が違うということで協議する中で、先ほどありましたように各小学校区に地区館を設置するというので進んで、温泉地域については今のところ3地区館ということになります。ほかの3地区につきまして、特に生涯学習推進委員の方とか町内会長さん、区長さんに集まっていたら状況を知る中で、熊谷地区につきましては、人口が少なくなっている中で現在いろんな事業をしているということで、これに新たに地区公民館事業等が加わるということになると負担になるので現状のままということ、出た意見としては難しいというような意見がありました。あと湯地区の関係につきましては、現在もいろん



な事業をしておるという中で、これが湯地区、細田、井土とか含まれてくると、広域になると、なかなか参加のほうがしにくいというような状況で、湯地区についてもその必要性というものは今のところ、できたら今の状況で充実をしていきたいというようなこと……。

○西村町長 湯地区というのは温泉小学校区。

○川夏生涯教育課長 温泉小学校区でございます。あと奥八田地区につきましては、これは小学校の統廃合のところからのいろんな課題があるというふうに聞いております。地区公民館の建物等の整備ができれば地区公民館の役員とか体制のほうは取り組むというようなことで聞いております。

生涯教育課としましては、できていないところには公民館の出前講座ということで昨年は奥八田のほうに出向いて、地区公民館活動はこんなものだというので、事業をしたところであります。できていないところにつきましては、旧町の地区の生涯学習推進委員会を中心に、ふれあい学級の委託事業で事業のほうを取り組んでいただいているというような状況です。

○西村町長 ありがとうございます。

どっちにしても、つくっていないところは地域の意見の中でつくっていないという、そういう形になりますか。

○川夏生涯教育課長 要らんというところもあり、つくりたいというところは条件とか建物とか、そういう環境整備をしてほしいというところがあるという状況であります。

○西村町長 一応地域の状況の中で3地区がまだ未設置ということで。

○川夏生涯教育課長 あとは温泉小学校区については温泉公民館があるというところで、そこに地区公民館を設置すると二重的な事業になってくるとい、浜坂地域もそういうところで旧8地区あるんですけど、中心部についてはもう浜坂公民館と重複するというので、中心部については地区公民館はできていないということになり、そういう部分が温泉小学校区についてはちょっと出てくるのかなと思っております。

○西村町長 課としての取り組みとしては推進を図っているという、そういう状況でいいんですね、前向きに。

○川夏生涯教育課長 はい。

○西村町長 あとは、それぞれの地域の状況によって可能性があるところもあると。

○川夏生涯教育課長 あとは、この公民館については、先ほどありましたように地域のコミュニティというところで、但馬の各市町では自治コミュニティという形の防災とか、そこら辺でのコミュニティづくりというのができてきております。そういう中で新温泉町もそういうところとあわせて、現行の地区公民館と地域のコミュニティというところについては、今後また検討していかないといけない課題かなということは思っております。

○西村町長 とにかく前向きに進めたいということですね。

○川夏生涯教育課長 そうですね。地区公民館のカルチャー的な部分ではないのですが、そういうところと、それから国が進めるコミュニティの再生というところ辺を含めて、この取り組みは今後、教育委員会、また社会教育委員会なんかで検討していく必要があるかなとは思っております。

○田中委員 いいですか。確かに今言われるとおりで、私の一番の真意は、結論からいうと、町長のまちづくりの構想の中にもこれは絶対必要ではないかと、一町民、また教育委員会側としても、教育の側だけで公民館を捉えているんですけども、コミュニティというところで捉えると、むしろほかの地域では、さっきの防災の観点から、人と人とのつながりは、そしてまた人づくりの観点からということで拠点化しているんです。そこに地域の人たちが集い、地域の特色を出していき、生きがいを感じている、そしてお互いに命を守り、安全でというふうなこと。となると、もっと広域的に公民館というものを捉えたコミュニティづくりが必要だと思うんです。いやいや、それがなくても、コミュニティは、ここから先、新温泉町は教育の学校施設を中心にコミュニティをつくっていきますよというんだったら、それはそれでいいと思います。ただ、そこら辺が、時代の先を見ているという意味でどうかなというふうな思いで、むしろ支援したい。私個人としては、とりあえずそういうコミュニティとしての公民館の位置づけをほかの機関と支え合って、町のそういう地域の拠点化をしていかれたほうがいいんじゃないかなと。だから生涯教育だけの観点でなく。特にそんなことを思うので、ぜひ一考していただけたらありがたいなと思います。以上です。

○西村町長 いい御意見だと思います。災害とかいろいろ心配な面も今増えておりますので、地域が一体となって連携をとるというふうなことは非常に重要だと思いますので、そういうことを念頭に置いて推進を図る必要があると思います。ありがとうございます。

○宮口教育長職務代理者 もう一つ。2ページの一番上の県立浜坂高等学校の支援事業、確かにこれはいいことが書いてあるし、6ページに、人口の流出のところで3つ目かな、浜高へ進学する生徒を増やす、このところ、たしか2年前か3年前ですか、兵庫県下の普通科で浜高が唯一欠員になっているという。浜高はもう大体ボーダーラインをずっと来ているんだけど、欠員になっている。

○西村町長 浜高のことについては、先日の住民懇談会で通学費用なんかを考えてほしいと。夢中の3割近い人が城北に行っていますね。送迎があるというのは大きなポイントになっているようですけど、この前、企画課に、通学費用、浜高に行っている定期とかを調べたんです。大体約400万あれば全額無償で対応できるということがわかりましたので、できればふるさと納税を。今のペース、今現在、700万以上3カ月で集まりまして、多分、去年6,000万だったんですけど、ほぼ1億2千万ぐらい行きそうだというふうな予想は出てきましたので、これは議会にも報告しないといけません、寄附の目的で子育てに使ってほしいというのが多いんです。

○田中委員 すごくありがたい。

○西村町長 はい。

○宮口教育長職務代理者 だけど、私、それはあんまり安易過ぎないかなと思う。ただ、お金を出して、便利だからこの学校に行くという。

○大林委員 でも結局、親が考えるところはそこだと思う。そうですね。なぜ城北に行くのかといたら、送迎があるからですよ。しかも無料。一応城北は毎年、今年度も無料にします、今年度も無料にしますとって、ずっと無料なんです。だから来年はわかりませんよと言っているけど、要はもうずっと無料で送迎をしているから、親は楽だと。しかも私立なので塾に行かせなくても、学校で全部教えるから、放課後とかでも。その手間がない、で、バスで帰ってくる、学校で勉強して。そこなんです、親は。

○宮口教育長職務代理者 だけど、やっぱり私は中身も。もちろん金で町がバックアップするという、これは町の大事な子どもだから、将来を担う子どもたちを育てるという意味で。私は、箱だけはできても中身をきちっとやらないと、私はそこが……。

○大林委員 学校で、授業以外で勉強を教えるというのは、やっぱり県立高校ではなかなか厳しいと思うので、でもそこは、それでも先生方にも頑張ってくださいとか、家からでも頑張るとかして、とにかく子どもたちも実績を上げていかないとだめだと

は思うんですけど、温泉地域の人から聞くと、やっぱりもう何が楽って、バスで連れていってもらってバスで連れて帰ってきてくれるのが楽だと言うんですよ。

○西村町長 我々行政としては、教育の中身に踏み込むことはなかなかできないから、そういう環境整備を、バスが無料になるとか、そういうことしか基本的にはできない面があると。だから、ちょっとでも浜高でやっぱり頑張ってもらいたいという気持ちがあるので……。

○宮口教育長職務代理者 だから、それだけのバックアップを当然町としても支援はしますよと。しかし学校としては、中身をやはり、ぜひ、丸投げじゃないけどもお願いしますよという。

○西村町長 頑張ってもらいたい。

○宮口教育長職務代理者 そういうことをやっぱり話をしないと。

○西村町長 そうです。

○宮口教育長職務代理者 ただ、これだけのものは全部出しました、はい、お母さんもお父さんも助かるでしょ、だから浜高に行ってくださいというような、それを受けた学校側の姿勢の問題だと思う。

○西村町長 そうですね、学校の特徴をね。

○宮口教育長職務代理者 それをやっぱりしっかり話をしていかないと、ただお金の問題だけでは私はないと思う。

○西村町長 それをきのうも西上教育長にはお話ししましたので。それから、さっきの中村委員さんからのいじめの件であります、これは国の制度で先月、初めていじめ問題の会議をさせていただきました。いじめ問題には積極的に首長が関わっていじめ問題を解決するといいますか、起こらないようにするというふうな、国の今の政権の大きな課題の一つでもありますので、そういうことで、今のところ問題提起というよりは、そういう会議を立ち上げたという、そういう段階です。今後そういう具体的な事例が起きた場合には、また適切に対応はしていきたいと思っております。

それから、スクールソーシャルワーカーの件は、わかりますか、何か。

○吉田こども教育課長補佐兼教育総務係長 はい、今年度1人なんです、過去には2人配置をさせていただいた年もございます。理想を言えば、やっぱり各中学校に1人ずつ配置をするというのが理想でありまして、そのために人を探している状況はあるのですが、なかなか人がいないという状況の中で、今は1人の方で2つの中学校を

受けていただいているというのが現実でございます。但馬の中を見てもなかなか人がいないという現実がありまして、複数の中学校を1人が受け持つといった形で対応されているのが現実ということで、何とか人を探して配置をしたいというところです。

○西村町長 これは資格が要るんですか。

○西村教育長 要ります。

○西村町長 そのような現状であります。

○中村委員 ありがとうございます。ということは、いじめの対策連絡協議会の話し合いというか、あれは今後の予定は、特に今はないということですか。

○西村町長 今後の予定はどうなっていますか。

○吉田こども教育課長補佐兼教育総務係長 いじめ対策連絡協議会につきましては、基本的には年に1回ということで、目的は、いじめの未然防止と早期発見ということになります。そこについては、町としていじめの基本方針というのを定めていまして、それを受けて各学校単位で基本方針を定めているという形になりますので、そのところを現実を見ながらどう対応していく、基本方針をこういう形で見直したらどうだというようなところの協議をしていくような場かなというふうな認識を持っております。また後ほど、7月19日の会議の内容につきましては説明をさせていただきたいと思っております。

○中村委員 それについては後の資料のほうの説明をいただいてからということにさせていただきます。SSWのほうですけども、探しておられるということで理解させてもらったらいいんですね。遅々としてなかなか解決に、段階的にはなっているんですけども、では社会に出られる、一步踏み出して学校にというふうなところまでは難しい現状というのが家庭の中のお話でも伺えますし、やっぱり対人援助の中で人の心が動くんだと思っておりますので、そこを、やっぱり人がどう関わっていくのかというSSWの配置の徹底もぜひお願いしたいなと思っております。

○西村町長 スクールソーシャルワーカーは常駐なんですか、常駐、毎日。

○吉田こども教育課長補佐兼教育総務係長 いや、常駐ではないです。

○中村委員 今、週2回ぐらい出られていますか。1校に行かれて、そこで出張的に行かれているんですかね。

○西村教育長 小学校の要請があれば動いてもらったりとか、いろいろ動いてはいただきますけど。

○中村委員 だから月木ということ、たしか月木ぐらいだったかなと思うんですが、それで半日ぐらいですよ、それが。たしかそうだったと思うんですが。その方がおられるということ自体も保護者の方々は知らない人もいるかもわからないし、もっと話してみよう、相談に乗ってもらおう、その門戸を開くまでというのも簡単に控えているだけではできないと思うので、訪問にしてもなかなか日中行って会える人ばかりではないと思いますし、そうすると1人ではとって追いつかないなというふうに思います。困っている人は、日々本当に昼夜悩んでいらっしゃるのが御家族だなというふうに思いますので、後のほうでもう一回触れさせてもらえたらなと思いますので、ぜひお願いします。

○田中委員 ちょっとつけ加えさせてもらいます。去年ですけども、去年ソーシャルワーカーと学校訪問の中で中学で出くわしまして、少し話をさせてもらったんですけど、時間がないので筋だけ言います。子どもと云々語る以前に、職員と私との関係をつくることができにくい、これが最大の課題ですというふうな内容をおっしゃって、中村委員が言われるとおり、職員自身が、ソーシャルワーカーとは何ぞや、私たちとどんな接点があったり、どうなのかと、その辺ができていない。だから入り口でとまっている。さっき宮口委員が言われた、いろんな形や器はできたけども、中身の運営が課題だという。だから、本当は実際に必要なところ、私も後で言いますが、子どもたちの実態や家庭の実態がさまざまあるんです。ところがぷっつんと切れている。つくってもこことつながっていない。だから誰が悪いのかというけども、誰が悪いという以前に、連携とかコミュニケーションとか組織とかが、形はあるけども実際は動いていない現実はありませんかというのが、私は考えられるので、そのことを伝えた。今は変わるとるかもしれませんよ、去年の時点では、まずそこが問題ですみたいな話でした。

○西村町長 ソーシャルワーカーさんですが、問題点とかレポートというのはあるんですか、報告書とかそういうの。

○宮口教育長職務代理者 必ず当然その日やったこと全てチェックして報告して、それをまた県のほうにも報告、たしか……。

○西村町長 それはそれぞれの学校で保管しとるということですか。

○宮口教育長職務代理者 要は全部書いて、そして、こういうようなことを今回子どもから質問があり、先生からあって、それに対してどう答えた、どういうふうな指導

をした、継続指導とか、そういうふうなものは私、経験しとるけれどもね。ただ来て、はい、つい話をして何のメモもなく一日終わったということはないと思います。

○西村教育長 スクールカウンセラーはそういうのが全部上がってくるんですけど、SSWの場合は、今回本町でも、とても動いていただいて家庭的な支援に入っていて、健康福祉課とつないだり、それから保健師さんと一緒になって動いて、こどもセンターと動いてとかということでもかなり動いていただいて、一つ問題が解決しそうなものもあるんです。ですので、今、私、教育長になってから、このSSWと話しますが、文書としてというのは、ちょっと今現時点では目にしていませんので、今後そのあたりのことも考えてはいきます。うちの指導主事、生徒指導関係のほうの主事と丁寧にコンタクトをとりながらやっているケースもありますし。でも本当に必要な方です。人数がいれば助かるなというところは感じています。

ちょっと発言したので、さっきのスクールアシスタントとかのことを今言ってもいいですか、少し。スクールアシスタントと補助員のことなんですけれども、研修をしたときに参加していただくとかということで、少しでも子どもの理解をしていただきたいというようなことでは取り組んでいます、今回10月に学校訪問をしていただく中で皆さんにお願いをしているとおり、本当にうまく機能しているかというようなあたりの御意見をいただいて、また改善していきたいなと思っていますので、そのあたりのところをよろしくお願ひしたいと思います。

それから、プロから学ぶ創造力育成事業ですけれども、これは3年前に県からおりてきた事業でして、県のほうからリストが挙がってきているんです、こういう講師があります、その中から各学校で選んでくださいという、そういうリストが挙がってくるんです。その中で学校で選んでいただく。そのリストの中からではなくても、地域の中ですばらしい方がいれば、そういう方を招いていただいてもいいですよというような事業になっておまして、今回夢が丘のほうは、私が指導主事をしていたとき最初にそういう連絡をとったところなんですけれども、子どもたちは運動もすごく好きだし、そういったことで、アシックスは靴の専門メーカーですけれども、そこの方のお話を聞きたいというようなことで県教委と直接私もやりとりをして、うまく道がついたという形です。浜中のほうは地元ですばらしい企業があるので、そういったことを子どもたちに知ってほしいというようなことで、この間実際に行ってきましたけど、すぐ地元にあるんだけど知らないこともいっぱい知れて、いいお話を聞かせていただいた

かなと思っています。以上です。

○西村町長 ありがとうございます。

委員の皆さん、また、もしその他の項で意見がありましたらお願いしたいです。

とりあえず、協議事項の中の（２）です。前回、７月２３、２６日と、８月７日に行いましたまちづくり懇談会の状況について、御報告をしたいと思いますけど、よろしいでしょうか。

では、吉田さん、お願いします。

○吉田こども教育課長補佐兼教育総務係長 ６ページをごらんいただきたいと思います。７月の２３、２６日に開催しましたまちづくり懇談会で出ました意見を簡単にまとめさせていただいております。

この両日につきましては、「若者・子育て世代が元気で活躍するまち」ということをテーマに御意見をいただいたということでございます。参加数につきましては、７月２３日の町民センターでは２４人、２６日の多目的集会施設では２２人の参加をいただいたという状況でございます。

大きく分けて２つに分類できるかなということで、一つには、人口の流出を防ぎ、U・I・Jターンを増やすために魅力のある町をつくるといったことでございます。中身的には特産品を活用してビジネスチャンスにつなげるといったこと、浜坂高校の活性化をどうするのかといったこと、町内でも若者の定住率が高い地域があるので、そこに学ぶべきではないかといったこと、関係機関と足並みをそろえて町の元気アップにつなげるといったような意見をいただいております。

続きまして、２つ目の分類としまして、子育てしやすいまちづくりについて御意見をいただいております。医療費負担の軽減ということ、公園等の整備、また、０歳児保育の充実、児童が減少する中で小学校の統合を考えるべきではないかというような意見もいただいております。不登校の児童生徒に対応したような施設をつくるべき、また、子どもの居場所を確保するように、児童館等を整備していただきたいというような御意見をいただいております。

○川夏生涯教育課長 ８月７日と本日９日、３回目、４回目ということで、この２回につきましては、女性が生き生きと輝くまちづくりということでの懇談会になっております。７日の懇談会につきましては町民センターのほうでありまして、参加者は７名というような状況でありました。出た意見は、前回の２３、２６日と同じ、内容的



には若者、子育てというような意見が集中していたというふうに思っています。

一つは子育て環境の整備ということで、公共施設とかスーパーなどに授乳室とかそういう施設があればということで提案のほうがありました。もう1点、やはり前回もそうなんですけれど、浜坂病院に婦人科、小児科があればというような意見もありました。ただ、昨年度までは小児科があったんですけど、患者が少ないというような状況で休止というような状況になったというような状況もあります。それと、やはり根本的に働く場所がないので若者が町外へ出てしまうのではないかとということ。それから、婚活事業の充実ということで前回もあったんですけど、若者はいるけど独身が多いとか、やはり昔のようなおせっかいおばさんとか、そういう人がいなくなったのではないかとというようなこと。あとは県の婚活の登録制度はあるけれど、なかなか登録していただけないというような状況があるといった意見もありました。それから、女性の社会進出が割と増えてきたけど、増えることによって家庭との両立ができない状況があるのではないかとという意見がありました。あとは、新温泉町の子育て環境、国も含めて保育料、医療費の無料化、徐々にはできてきているのでというような意見も出ておりました。あとは交通の不便によって人の流出というようなことがある。あとは女性が活躍する環境整備ということで、特に集える場所の整備も必要ではないかというようなこと、あとは住環境の整備ということで、若い夫婦が安く暮らせる町営の住宅等の整備が必要ではないかというような意見が出ておりました。

生涯教育の関係では、やはり若者が知り合う機会ということで、従来は青年団というような組織があっというろんな交流ができたということ。成人式の実行委員会を立ち上げるのですが、大体浜高の卒業生で4分の1ぐらいい残っていて、20数名は町内または鳥取のほうで暮らしている。そういう人が年々交流ができたらなという、そこら辺が弱いのかなというふうに思ったり、もとに戻ると、やはり地域のコミュニティーというところ辺も、生涯教育としては関わりがあるのかなというふうに思います。あと、企業、家庭、地域の意識というところでは、うちが持っています男女共同参画社会の啓蒙というところ辺が一つの課題になっているのかなというふうに聞かせていただきました。以上です。

○西村町長 ありがとうございます。

何でテーマを若者、子育て世代と今回したかという背景、実は兵庫県は41、市と町があるんですけど、総務省の外郭団体の予測では、兵庫県では実はこの新温泉は消

減のトップ、1番にランクされております。2番目が佐用町、それから3番目が上郡町ということで、消滅ナンバーワンという。それは去年、子どもが60人、それから出生率が1.43ということで、但馬では一番低い。兵庫県では1を割ったところもあるんですけど、非常にランク的には41中の出生率では30番目に位置していると。そういうふうな背景があります。人口も少ないという中で、消滅ナンバーワンになっておると。そここのところを皆さんに知っていただく中で、具体的にどうすれば将来、町を担う子どもが増えていくか、そういうことについて皆さんの知恵をおかりしたいということでテーマを設けております。合併した年は1.82で県下ではトップだったんです、出生率が。2位が香美町だったんです。今、香美町がトップで、うちは30番目という、但馬では一番低いと、そういう状況があります。何とかそこを脱却したいというのが今回の目的になります。

鳥取に近いということで、転出の約5割は鳥取県になっています。京阪神が大体3割、その他が2割、そういうふうな状況で鳥取に流れると。結婚する方も鳥取、それから結婚しても岩美に住居を設けるとか、そういう方も多いですし、住宅政策、教育、それから働く場とかいろんな観点でやっている、子どもの数を増やすためにどうするかということに手を打たなければいけないなど。人口減少はここだけの問題ではないですけど、共通した全てのまちの問題なんですけど、特にうちは厳しいかなというふうな状況です。

○田中委員 一つだけ、ちょっといいですか。

○西村町長 はい。

○田中委員 時間がないのですごく気を使っているんですけど。教育委員会以外の課でもそんなように町長部局のほうで考えていただいている非常にありがたいし、それこそ連携をしていただきたい、ぜひ、視点の違う部分。そういう意味で、子育てしやすいまちづくりと書いてある中で、私も教育委員として聞くことと重複していることがたくさんあります。その中でも、結局は子どもの居場所をつくってほしいという言葉に尽きるものがたくさんあるんです。

家に帰って、公園・遊具整備、これはそうです。居場所がないんです。健康公園にありますかな、白馬にありますかなといったって、公園だといっても、僕よく行きますけども、ほとんどいないんです。行けない、子どもだけで行ってはだめという。子どもが行ってはだめという公園があるのは新温泉町だけですね。子どもは行ってはだ

め、大人がいないとだめ。健康公園は行けますか。というようなことで、近くに欲しいという声をたくさん、僕、湯村で聞きました。例えて一例でいうと、もとの保育園があるあの園庭を何で開放してくれないのか、子どもたちにというような声があります。住んでいる住居に子どもが遊べる場が欲しい、親子で。本当にないんですね。そういうふうなことも子どもの居場所だと。それから、地域による見守り、これも登下校で子どもが一体どうなる、それから不登校児童に対応した施設が欲しい。それから放課後児童クラブ、居場所です。一番下に、まさしく居場所、図書館もそんな場所にしたらどうか。だから、総合的にこれを分析すれば、ぜひ、教育委員会や企画課でこれを分析して町長へ進言してあげたらいいと思う。こんな意見がある中で、こうするとこんな施策が必要ではないですか、ハード面ではこうで、だから分析能力は非常に持っていらっしゃるんですから、分析して連携して、可能なことから手をつけられたらいいんじゃないですか。僕はとってもこれはありがたいと思って見えています。ごめんなさい、個人意見です。以上です。

○西村町長 ありがとうございます。田中委員のおっしゃるとおりだと思いますので、ぜひこれを再度分析、研究して、一つでも手を打っていきたいと思います。ありがとうございます。

とりあえず、次のいじめ、不登校の現状についても御報告をさせていただいて、最終、その他の項で御意見をいただきたいと思います。次をお願いします。

○吉田こども教育課長補佐兼教育総務係長 それでは、7ページをお開きください。問題行動・いじめ・不登校等の状況についてということで、7月末の時点での数字をお示しさせていただいています。簡単に説明をさせていただきます。

上から3つ目、いじめの認知ということで、小学校14件、中学校13件ということで年々増えていっております。これは積極的に認知をしていこうということが非常に浸透してきた結果かなというようなことで捉えております。

その次の不登校でございます。括弧書きについては、前年からの継続の数字ということになっております。平成30年度と今年度を比べたときに、総数で平成30年度が小・中合わせて12名、その中の継続が9名。今年度7月末時点では総数が10名、継続が7名。継続が2名減った状況の数字になっておりますが、これの理由としましては、中学校を卒業してカウントがされていないというのが大きな要因ということで、実態としては余り減っている状況ではないという認識を持っております。下のほうの

枠で、子ども相談室の相談件数ということでお示しをさせていただいております。校種別の内容別ということで、記載のような相談が現在寄せられているというような状況でございます。

めくっていただきまして、8ページ以降に、先月、7月19日のいじめ問題対策連絡協議会で出ました主な意見を整理させていただいております。これも簡単に抜粋して説明をさせていただきたいと思っております。

出席者のほうですが、委員10名の中で御都合が悪い方がお二人いらっしゃいました。8人出席をいただいております。主な意見としまして、1つ目、家庭での意識の向上が必要ではないかというような意見を頂戴しております。2つ目でございますが、いじめの対応としまして、中心になる部署、またそれぞれの役割がどうなのかというような御質問もいただいております。また、いじめを防止するためには教育が必要だというような御意見もいただいておりますし、9ページに移っていただきまして、不登校からひきこもりにつながるケースもあると、そのまま成人になっていくことが心配だというような御意見もいただいております。また、起こったいじめについて検証することで、焦点をどこに置くかというところが見えてくると。そうすると発見がしやすくなるのではないかというような御意見もいただいたところでございます。

簡単ですが、説明は以上です。

○西村町長 ありがとうございます。

○田中委員 よろしいですか。

○西村町長 はい、今の項目について。

○田中委員 時間がないので端折っていきます。

まず、同じように教えてください。この問題のこの会議の所管は教育委員会でしょうか。書いてないのでわからない。

○吉田こども教育課長補佐兼教育総務係長 これは出席者のところの委員のところ、西村町長（会長）ということで、町長が会長を務めている、町長が主宰の会議になります。

○田中委員 主宰の会議で、所管はどこがしているんですか。町長個人がしているわけではないので。

○吉田こども教育課長補佐兼教育総務係長 所管はこども教育課になります。

○田中委員 では、教育委員会ですね。

○吉田こども教育課長補佐兼教育総務係長 はい。

○田中委員 それから目的はさっきありました。いじめの早期発見というのが目的であるということで言われましたので、わかりました。参加者もありました。一つだけ、時間がないけどいいですか。

○西村町長 はい、大丈夫です。

○田中委員 ぜひ、具体的には、もうざっくり言いますけども、子ども相談室、いろんな今までに出てきた問題でも、これを何とか充実を図ってください。教育委員会にもお願いしたら、町長、こういう意見だったんです。前教育長に言ったら、仕事が多くてという返事が返ってきました。実は創設したのは私なんです。そのときよりも後退しているんです、その間に。なぜなら、そのときには親の集合体を持って悩みを共有して、それから各小・中学校の校長、教頭、生徒指導は、必ず年1回は相談室に来るということをやっていた。それからもう一つは、子どもがどうしても行けないときには、心の場として子どもが来ていました、相談室に。私、子どもと一緒に仲よくなって。中には、海が見たいというので海に行った、そういうこともやっていました。それからもう一つ、時間的にこれだけの時間しかだめだなんていうことはやってなくて、いやいや、もっともっと幅をもってやって結構ですということで夜もやっていました、必要があれば。夜だったら来れる。また、出向いていました、各学校にも。家庭にも出向いていました。家から出れない、家庭の中にも入る。勤務時間については融通をきかせてくれて、その辺はこうこうでやりましょうと。だから先ずは子どもに入ってくださいということでした。そういうふうなことを記録に残してあると思いますけども。

だから今の相談室が、ここの中に要望とかいっぱいありますけど、後退していると思います、私。それは教育長、忙しいからできないんですでいいんでしょうか。だから、町長、お願いします。ぜひ子ども相談室に専属の職員を置いていただきたい。もし町として財政が足りなかったら、これも教育委員会で言いました、個人で言っているわけではありません、ボランティアで幾らでも支援しますから、そういう組織をつくってください。第1号、私が手を挙げますから、ボランティアで使ってくださいと言いました。中村さんもおっしゃいました。そこまでやっている、でも物が動いていない、教育委員会で。町長、これは聞いていますか、そういう部分。

○西村町長 いろんな背景はあるんですけど、とにかく場所をもっともっと利用しや

すい環境にしようということは教育長とも前から何度か話をしております。

○田中委員 だから、ぜひ本気で取り組むなら形にしてください。そして、いろんな関係機関とも、僕は連携というのが大好きですけども、県も利用できます。私、よく利用していました。来てくれます、必要があれば。町であれば、民生委員あたりとの連携がとれる。それぐらい連携を取ってほしい、全部局と、校長とも。誰かが本気にならないと、と僕は思います。ぜひお願いしたい。ごめんなさい、一人で。以上です。

○西村町長 ありがとうございます。

○中村委員 済みません、それに絡めて。

○西村町長 はい。

○中村委員 この町のいじめ防止基本方針をもう一回見たときに、ちょっと読んでみますね。新温泉町いじめ防止基本方針に基づき町教育委員会が設置する子ども相談室を総合的な相談窓口としというふうにありますよね。総合的な相談窓口となる子ども相談室がそれだけの機能が発揮できているのかなと思ったんですね。実際、それを知っている人がどれだけいるのかなというのも思いますし、利用している人はどうなのかなって。待っているだけでは出てこない問題というのものもあるし、人数が、専属に関わっていらっしゃる方々がどのぐらいいらっしゃるのか、ちょっとわからないんですけども、やっぱり待っているということだけではなくて、今おっしゃったボランティアを増やして、その中で、一人一人に寄り添うべきと思うんですよ。あの方がどうも家におられるらしい、困っているけども言いにくいらしいといえは訪問すればいいと思うし、それを緻密に丁寧につなげていって、何かあそこに行ったら居場所があるらしい、あそこに行くと何か同じような方々が話し合っ、何か糸口が見えそうな気がするというのもあると思うので、そういうところにつなげていこうとすると、しっかり動く人がいて、アンテナを上げて、待っているだけではなく訪問して、そして一緒になって考えていく。そこから、どうすればもっといいのかという話し合いも人数が複数集まればできていくのではないかなと思いますし、せっかく総合窓口が子ども相談室なら、もっと実のある窓口として機能してほしいし、少数かもわからないけれども、引きこもっていらっしゃる方々はなくはない、だんだん見えてきていますよね。そういう方々が、子どもだけではなくて異世代の交流ということもできるかもわかりませんし、ぜひお願いしたいなと思います。

それともう1点、済みません、私、以前にも教育委員会の中で発言させてもらった

んですけれども、中学校、義務教育を卒業した後に、その人との関わりを持てる例えば行政の窓口というのがはっきりしていないということは確認させていただいたんですね。では、その方々との接点はどうするんですかということも確認させてもらったら、相談があれば乗りますけども、反対に言えば相談がなかったら情報は収集できないのか。ここに窓口がありますよ、何かあったら言ってくださいよという発信し続けるところもないということになりますよね。そこら辺を町としてやっぱり窓口をはっきりさせる。縦割りではなくて、ここではない、そこではないのではなくて、何か一生懸命真剣になって考える、そういうしっかりした系統立ったものがないのではないかなと思うので、ぜひ、ここに来てくださいよというアンテナを上げてほしいなということと、この前の人権講演会でいいことを言われましたよね。私が記憶に残っているのが、本人に向ける対策はもちろん大事なんだけど、本人に向ける対策だけでは解決は難しい。社会が課題として、社会が持っている課題を解決していこうと思えば、周囲に宛てた周囲に発信した取り組みも要るんだということ言われたと思うんですね。これって理がちゃんと合っているんだなと思って、ノーマライゼーションということがよく福祉社会では言われているんですけども、一人が解決する、一人が食べて寝て安全であればいいのではない、社会との接点をどう持てるかということがしっかりできて初めて住みよい社会になるということはどこでも言えることだと思うんですが、ぜひそこをお願いしたいなと思うことと。

そうであるなら、このいじめ問題の連絡協議会が年に1回か2回で終わっていいものなのかなと思うし、ここから出てきた課題とか、継続しなければいけないこととか、深めたらいいことというのは誰がどのようにまとめて次に生かせるのかなと思ったときに、ただそれこそ絵に描いたというだけの協議会になってしまわないかな。1年後に集まっても、去年は何を話したかなということがそんなに鮮明にはないだろうし、それぞれいろんな意見ですよ。こういう目標について、こういう課題についてみんなで攻め合っていきましょうかというものでもなさそうな気がしますし、何か町としてどうありたいのか、いじめ問題にどう向かいたいのか、課題がいっぱいあるけれども、ここからしっかりと深めようかという何かそこら辺が見えて、これを次につなげる、生かせるものにぜひ、せっかく会をつくったんだたらお願いしたいなと思います。

○西村町長 実は3日前に、みかた校とって障がいのある子どもさんが通っている

んですけれども、射添に5年前に学校ができて、その保護者と話し合いをしたんです。校長先生とか教頭先生も来ていただいて、保護者の代表や保護者とで5人ぐらいだったかな、そういう中で一番課題は、自分たちが死んだ後、子どもがどうなるかと。働く場については非常に限定されている。あっても給料は本当に安いですし、生活そのものが成り立たないという、そういうことで、同じ課題を、実はほかのグループといますか、知的障がいの子どもの保護者も共通課題なんですね。だからみんなで連携をとって、また月に1回でも会議をして、NPO法人なり具体的な組織をつくってそこで解決。事業所をつくるとか、宿泊施設をつくるとかね。お金、ハードの面のバックアップは行政ができるけど、運営そのものはやっぱり民間というか、そういうボランティア団体を中心にやっていったらということで、その会の会長さんともお話しして解散したんですけどね。そういう橋渡しを、行政といますか、町長が中心になってやろうという話に持っていったんです。ですから今も、このいじめも全く同じことになると思いますし、いじめは進んだらひきこもりになっていきますし、共通課題はたくさんあると思いますので、そういうところを。

○中村委員 済みません。明石市では、ひきこもり支援課というのを7月からスタートしてますよね。香美町では就労支援ということではちょっと筋が違うと思うんですが、でも、ひきこもりの方も、いろんな障がいを持たれている方も、退職された方も、ここに来て、相談に乗りますよというセンターを8月からスタートさせていますよね。私は就労だけではないと思うので、ひきこもりの対策は。就労だけではないけど、何かあそこに行ったら話を聞いてくれそうな人がいる場所があるということは大きな窓口だと思いますので、そういうことで、でも、そのひきこもりの方というのは年が経てば経つほど何か困った感がなくなっていくというふうな意見もちょっと聞かせてもらったんですけど、私は困った感がないのではなくて、社会に困ったが言いにくいんだと思うんですよね。ある意味ひきこもりの問題は、社会が引きこもらせているという課題でもあるんだとよく言われますけれども、やっぱり社会の受け入れがどうなのか、社会の一步を踏み出せない課題が大きいのしかかっているから、特にまたそういう人たちは少数でもあるから何か力が出せないところがあると思うんです。そういうところにやっぱりしっかりと、寄り添うだけではなくて積極的に出向いていく、声をかけていく、一緒になって考えましょうよというところ、人をつくり上げていくという、ぜひ、いじめも一緒だと思うんですけれども、居場所も含めて。



○西村町長 大体、日本の流れが、寛容さというのがだんだんなくなってきている。ゆとりがない、自分のことで精いっぱい、生きるだけで精いっぱい、人のことは次だという、そういうゆとりというか、寛容さというか、そういうものはだんだん無くなって、そこがやっぱりそういうひきこもりやいじめにつながっているような。だから大人社会の現実の裏返しがそういう次世代につながっている。だからもっと大人が心を開いてやらないといけない。そういう反省はあると思いますけども、そういったところを一つ一つ、大きな課題ですけど、解決できるように動いていきたいと思いますので、また御助言のほうを。とりあえずみかた校に通う子どもの保護者の方がものすごく将来を心配されているという背景はあったりします。町も一緒になって考えようと、推進しようと思っているので、ひきこもりも含めて取り組んでいきますので、よろしくをお願いします。

課題はたくさんありますし、皆様からいい御意見を本当にありがとうございました。今年度1回目の総合教育会議、基本的には年に2回という形をとらせていただいておりますが、またその都度、大きな問題があったらまた御提案申し上げて相談したいと思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。

きょうは、以上をもちまして終了させていただきたいというふうに思います。

\*\*\*\*\*

閉会 午前11時44分

\*\*\*\*\*